

木材を利用した官庁施設の保全等に関する検討会（第3回）議事概要

日時 平成28年2月18日（木）15:00～17:00

場所 中央合同庁舎第2号館13階 官庁営繕部入札室

1. 開会
2. 議事
 - 1) 前回の議事概要
 - 2) 関係団体へのヒアリング結果
 - 3) 木材を利用した建築物の現地調査結果
 - 4) 調査・検討成果のとりまとめ
3. その他
4. 閉会

（配布資料）

- | | |
|-------|------------------------------|
| 資料1-1 | 第2回検討会 議事概要（案） |
| 資料1-2 | 第2回検討会 委員指摘事項 |
| 資料2 | 関係団体ヒアリング結果（概要） |
| 資料3 | 木材を利用した建築物の現地調査結果（概要） |
| 資料4-1 | 建築物等の利用に関する説明書（案） |
| 資料4-2 | 木材を利用した官庁施設の適正な保全に資する留意事項（案） |
| 資料4-3 | 途中成果の確認に対する委員指摘事項 |

（出席者）

委員 中島座長、稲山委員、柿沼委員、槌本委員、宮武委員

事務局 国土交通省官庁営繕部整備課 木材利用推進室長、

国土交通省官庁営繕部計画課 保全指導室長

オブザーバー 林野庁林政部 木材産業課 係長

木材を利用した官庁施設の保全等に関する検討会（第3回）

議事概要

議事1) 前回の議事概要について

事務局より資料1-1、1-2に基づき説明

議事2) 関係団体へのヒアリング結果（概要）について

事務局より資料2に基づき説明

【委員】 日本木槽木管（株）からの情報提供にある木製水槽については、一般的に公共建築物に使われているのか。

【事務局】 官公庁関係で約60か所弱の施設、他に官公庁を除く施設として、例えば、学校、病院、福祉施設関係で、約40か所強の施設で使用されている実績がある。

【委員】 日本木材防腐工業組合からの情報提供にある木材保護塗料の内容と日本塗料工業会からの情報提供にある防腐、防蟻塗装の内容が両者入れ違いではないか。

【事務局】 両者の入れ違いなので訂正する。

【委員】 この資料を最終的な成果物のなかに反映することが前提なのか。

【事務局】 今回資料2で示したものは、資料4-1、4-2の成果に反映できた内容である。

【委員】 全日本瓦工事業連盟のホールレス工法については、一定の評価がなされている工法だが、全国的に普及しているとはいえないものであり、採用については慎重にすること。

また、樹脂サッシ工業会の樹脂製建具の保全で、樹脂部分の耐用年数について100年と記載しているがそのとおりか。

【事務局】 希望的な耐用年数なので、保証年数を確認する。

議事3) 木材を利用した建築物の現地調査結果（概要）について

事務局より資料3に基づき説明

【委員】 空知総合振興局森林室の接合部の写真で、接合金物に腐食の兆候が見られたとあるが、どの程度の腐食なのか。

【事務局】 ボルトの頭部に腐食がある。

【委員】 兆候というよりも、すでに腐食していることではないか。また、集成材が白っぽくなっているのは濡れた跡のようにみえるがどうか。

【委員】 防火処理をしていれば白華の可能性はある。

【事務局】 防火処理をしている。

【委員】 それぞれの施設は、定期点検を年1回はしているか。

【事務局】 年1回実施している。

【委員】 目視点検という回答だが、高い部分の屋根組などの点検は、足場を組まずに目視できる範囲で行っているのか。

【事務局】 脚立などからの目視での確認である。

【委員】 床下部分についての点検方法や点検周期はどの程度か。

【事務局】 床下点検口から年1回のぞき込む程度の点検である。

【委員】 建築物保全マニュアルをいくつかの施設から入手しており、各マニュアルの項目にバラツキがあると思うがどうか。

【事務局】 充実しているマニュアルとそうでないものがあり、細かい点検方法まで記載していないものもある。

議事4) 調査・検討成果のとりまとめについて

事務局より資料4-1、4-2、4-3に基づき説明

【委員】 資料4-2、41ページの集成材等の接着層のはくりの(3)施設性能への影響(例)に曲げ耐力の低下を引き起こすとあるが、接合部のせん断耐力の低下のほうが、影響が大きいのではないか。

【事務局】 「接合部のせん断耐力の低下」に修正する。

【委員】 集成材等の接着層のはくりの原因として、接着操作の不備はあると思うが、使用する部位の使用環境に対する接着材の種類が日本農林規格で決まっているので、その情報を追加で留意事項と資料に記載してはどうか。

【委員】 集成材の剥離については、ラミナの乾燥状態が不十分だということや、歩留りをよくするために端部ぎりぎりでもカットすることによる原因が考えられる。

【事務局】 本編の留意事項と資料編に記載する事を検討する。

【委員】 資料4-2、50ページの築年数による蟻害の被害率について、古い建物は蟻害対策が行われていないものが多く、築年数の経過と比例してシロアリの被害が多くな

るとは言えない。2000年の住宅の品質確保の促進等に関する法律の施行以降は、急速にシロアリ対策の技術が進んでいるため、この表でも言えるが15年経過している建物に被害が多く出ている。その解説を記載すること。

【委員】 防蟻処理の持続する期間と蟻害との関係をまとめる方向で整理すること。

【委員】 資料4-1、14ページの白色化している写真について、黒く変色しているのが黒カビではないか。

【委員】 雨ざらしで使った場合、まずグレーに変色する現象がおきる。森林総合研究所の専門家へヒアリングをすること。

【委員】 同じ14ページに変色で「きのこ」とあるが、変色の定義はどこまでか。

【委員】 変色ではない。「きのこ」とだけ記載したほうがよい。

【委員】 資料4-2、35ページの干割れで、干割れが起きたからと言って曲げ耐力は低下しない。どちらかというとなり接合耐力が低下する恐れがあるので、修正をしていただきたい。

【委員】 資料4-1、13ページの劣化に干割れを含めてしまうと木材を使えなくなってしまう。

【委員】 20%以下の乾燥材を使用しても、室内が過乾燥になると干割れが起きるため、ごくあたり前の現象である。

【委員】 資料4-1、15ページの構造体に発生している干割れは劣化につながらないため削除すること。

【委員】 資料4-1、13ページの干割れの写真だが、この現象は腐朽が原因で割れたもので、干割れではない。何か衝突したものではないか。

【事務局】 普通にありえない兆候の写真であれば、注意喚起として表現を変えて残したいと考える。

【委員】 資料4-1、50ページの故障と対応で、干割れが生じたら専門業者に点検補修を依頼することと記載しているが、この記載はやめてほしい。

【事務局】 他にもこのような記載をしているところがあるので改める。

【委員】 資料の量が多いので、今後みていくとまだ意見がでると思うが、どのようにとりまとめていくか。

【事務局】 今後、委員の方から頂いたご意見についてはできる限り反映させて頂きたいと考えている。最終的には、座長のご確認をもって最終版としてとりまとめたい。

【委員】 最終的には、事務局と座長の一任とさせていただきたい。

以上で議事を終了する。

— 了 —